

## 菊花展が華やかに

10日、「子育て厄除八幡さま」として親しまれている大宮八幡宮（杉並区大宮2-3-1）の境内で、毎年恒例の「杉並大宮菊花展」が開催され、七五三詣などで訪れた人たちを楽しませています。

大宮八幡宮は、950年の歴史を持ち、応神天皇が主祭神です。応神天皇は、胎内にあるときからご神威を発揮され胎内天皇とたたえられました。そのことから、縁結びや安産、子育ての信仰につながっています。そのため、この時期には区内外から多くの七五三詣の家族連れで賑わいます。

そして、この七五三詣の季節に、見頃を迎えるのが菊です。大宮八幡宮の氏子を中心に地域の愛好家の集まり「大宮菊の会」が活動していて、その花の時期に合わせて、毎年菊花展を開催しています。第38回杉並大宮菊花展も、10月27日から11月23日の期間で開催されています。

吉川英治が詠んだ句に「菊作り 菊見るときは陰の人」があります。この句は、吉川が菊人形を見て、その素晴らしさに「見事、見事」と感嘆すると、菊を育てた人形師が陰で涙を流して喜んだと知って詠んだとされています。その意味は、表面の美しさだけでなく、その陰の努力など、物事の本質を見ることが大切ということだそうです。菊作りは、その句のとおり、花を咲かせるために1年を通して作業が必要な品種です。会員は、さし芽から消毒、施肥、土づくり、肥料など丹精を込めて栽培しています。



こうした作業の結果、200鉢を超える見事な菊が並んでいます。大輪の花を咲かせる厚物（あつもの）、花弁が管状になっている管物（くだもの）、葉を鉢よりも大きくして花を咲かせる福助など、白・紫・黄色・桃色の鮮やかな菊が、その美しさを競っています。また、その七五三詣にちなみ「7」「5」「3」の数字を形づくった、“文字菊”が展示されていて、とても心が「な・ご・み」ます。

### ■第38回杉並大宮菊花展

【場 所】 大宮八幡宮（大宮2-3-1）境内

【開催期間】 11月23日（祝）まで（入場無料）

【交 通】 京王井の頭線「西永福駅」下車徒歩7分

【問い合わせ先】 大宮八幡宮：電話03-3311-0105